

## 『受難週をむかえて』

吉田真司

新約聖書の四福音書は、受難節（レント）の最後の一週間（受難週）についてかなり克明に記録しています。その第一日が「棕櫚の日曜日」と呼ばれる根拠は、イエス様がエルサレムの町に入って行かれる時（エルサレム入城）、人々が棕櫚（なつめやし）の枝を手に持って、これを打ち振りながら歓迎したという出来事にあります。福音書の記述に従ってこの一週間の出来事を列記しますと、・・・

- 月曜日：「宮潔め」と呼ばれるイエス様の出来事。神殿に於ける人々の信仰生活の在り方に対する極めて強い批判の言葉と行動。
- 火曜日：神殿に於けるイエス様のかなり長い説教と論争。
- 水曜日：エルサレム郊外のオリーブ山のふもとでの滞在。ベタニア村で女性がイエス様に香油を注ぐ記録有り。「オリーブ山説教の日」「ベタニアの日」などと呼ばれる。
- 木曜日：最後の晩餐の日。イエス様の訣別説教。ゲッセマネの祈り。イエス様が弟子たちの足を洗った出来事から「洗足の木曜日」とも呼ばれる。
- 金曜日：「受苦日」と呼ばれる。裏切りと捕縛、裁判（尋問と判決）、十字架の苦しみと死。そして埋葬。
- 土曜日：番兵による墓の見張り

この受難週に行われる、かなり古い時代からの特徴的な礼拝の仕方は、まず礼拝堂からすべての飾りを取り除くということから始まり、ローソクを一本ずつ消していくという、イエス様が亡くなられた悲しみと暗さを象徴する形でした。それは「消灯の礼拝」と呼ばれ、7本（あるいは12本か18本）のローソクを聖書の物語を朗読する度に一本ずつ消していき、最後の一本が消えた時、礼拝堂は闇に包まれる、そんな礼拝です。今週水曜日夜の「消火礼拝」（19:30～）にどうぞお越し下さい。また金曜日（受苦日）には「受苦日礼拝」（10:30～）も行います。受難週を特別な時として共に礼拝に参じましょう。

## 教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00～10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40～12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30～10:20
		(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30～9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30～12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00～12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30～3:00 (長谷川家)

## 日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&amp;FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>